共立女子大学　家政学部児童学科　カリキュラムツリー

ディプロマ・ポリシー

DP1-1
【客観性・自律性ー幅広い教養】
生活者の視点から人間生活について多角的に広く追求し、児童を取り巻く人間・社会・生活について多角的にとらえ、社会に貢献できる幅広い教養を有している。

DP1-2
【客観性・自律性ー専門知識】
保育領域・教科に関する専門的知識を修得し、保育職・教職の役割と責任について理解している。

DP1-3
【客観性・自律性ー主体的判断力】
保育現場・学校現場で生じている課題やニーズに対して適切な対応方法を主体的に考え、他者に説明することができる。

DP2
【課題発見・解決力】
子どもの発達に応じた保育・授業の構成や環境・教材・教具の工夫ができ、保育・教育に関する課題を自ら発見し、探究し続けることができる。

DP3
【リーダーシップ】
自己の保育・教育実践を振り返り、自己の学修課題を明確化し、実践と理論を結びつけながら自らの実践の向上をめざすことができる。子どもを尊重する態度や保育職・教職に対する使命感と責任感をもって、他者と協働しながら適切に行動ができる。

卒業研究

保育・教職実践演習（初等）

課題ゼミナール

保育・教育特別演習A・B・C

専門探究科目

CP3-4
３年次には課題ゼミナール、４年次には卒業研究が配置される。課題ゼミナールは、１人の教員のもと少人数に分かれて、学生各自の興味・関心に基づいたテーマを設定し、論文購読や実践への参加観察、調査、制作などの方法を用いて、レポートあるいは作品をまとめる。
　卒業研究は必修科目として、３年次までの学修・研究の成果を踏まえ、児童学の諸分野における特定の課題を選択、研究計画を立案し、教員の指導のもとに研究を行う。その成果を論文としてまとめ発表する。これら一連の学びを通して、課題解決能力やプレゼンテーション能力を養うとともに、児童の育成やその支援、子どもにかかわる専門実践者としてふさわしい認識と理解を確かなものにする。

専門発展科目

CP3-3
保育職・教職の各種資格関連科目として、「保育領域科目群」「教育領域科目群」「実践・実習科目群」の科目群に分けて配置している。「保育領域科目群」「教育領域科目群」は、子どもを尊重する子ども観や個人や集団に応じた支援・指導ができる技能及び保育職・教職への使命感と責任感を基軸として自己の学びを総括し、諸課題を解決していく能力と実践的態度を身につけられることを目的としている。また、「実践・実習科目群」は、各科目で修得した理論と実践を統合する能力を養うため、保育実習・教育実習やフィールドワークを通して、保育、教育の実践力を育むとともに、学生自らが学ぶ姿勢や課題を分析・検討する力を養うことを目的としている。

子ども家庭支援の心理学
子どもの食と栄養
現代社会福祉論
子ども家庭福祉
子どもの保健
乳児保育Ⅰ
社会的養護Ⅰ
保育者論
教職論
教育課程論
教育制度論
生徒・進路指導の理論と方法
教育相談の理論と方法
特別支援教育・保育概論
子ども家庭支援論
子育て支援
国語科教育
社会科教育
算数科教育
理解教育
家庭科教育
生活科教育
保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導）
保育実習Ⅰ（保育所）
保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導）
保育実習Ⅰ（施設）
幼稚園教育実習Ⅰ（事前事後指導）
幼稚園教育実習Ⅰ
保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導
保育実習Ⅱ（保育所）
保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導
保育実習Ⅲ（施設）
幼稚園教育実習Ⅱ（事前事後指導）
幼稚園教育実習Ⅱ
小学校教育実習（事前事後指導）
小学校教育実習

乳児保育Ⅰ
乳児保育Ⅱ
現代社会福祉論
子ども家庭福祉
社会的養護Ⅰ
社会的養護Ⅱ
保育者論
教職論
教育課程論
教育制度論
生徒・進路指導の理論と方法
教育相談の理論と方法
特別支援教育・保育概論
子ども家庭支援論
子育て支援
子どもと児童文化
子どもの健康と安全
児童英語
教育とICT活用
国語科教育
社会科教育
算数科教育
理解教育
家庭科教育
生活科教育
保育・子育て支援実践演習（基礎）
保育・子育て支援実践演習（発展）
初等教科教育法（国語）
初等教科教育法（社会）
初等教科教育法（算数）
初等教科教育法（理科）
初等教科教育法（生活）
初等教科教育法（音楽）
初等教科教育法（図画工作）
初等教科教育法（家庭）
初等教科教育法（体育）
初等教科教育法（外語語）
道徳の指導法
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
保育・教育フィールド演習
保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導）
保育実習Ⅰ（保育所）
保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導）
保育実習Ⅰ（施設）
幼稚園教育実習Ⅰ（事前事後指導）
幼稚園教育実習Ⅰ
保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導
保育実習Ⅱ（保育所）
保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導
保育実習Ⅲ（施設）
幼稚園教育実習Ⅱ（事前事後指導）
幼稚園教育実習Ⅱ
小学校教育実習（事前事後指導）
小学校教育実習

子ども家庭支援の心理学
子どもの食と栄養
子どもの保健
乳児保育Ⅱ
社会的養護Ⅱ
保育者論
教職論
生徒・進路指導の理論と方法
教育相談の理論と方法
特別支援教育・保育概論
子育て支援
子どもと児童文化
子どもの健康と安全
児童英語
教育とICT活用者論
保育・子育て支援実践演習（基礎）
保育・子育て支援実践演習（発展）
初等教科教育法（国語）
初等教科教育法（社会）
初等教科教育法（算数）
初等教科教育法（理科）
初等教科教育法（生活）
初等教科教育法（音楽）
初等教科教育法（図画工作）
初等教科教育法（家庭）
初等教科教育法（体育）
初等教科教育法（外語語）
道徳の指導法
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
保育・教育フィールド演習
保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導）
保育実習Ⅰ（保育所）
保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導）
保育実習Ⅰ（施設）
幼稚園教育実習Ⅰ（事前事後指導）
幼稚園教育実習Ⅰ
保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導
保育実習Ⅱ（保育所）
保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導
保育実習Ⅲ（施設）
幼稚園教育実習Ⅱ（事前事後指導）
幼稚園教育実習Ⅱ
小学校教育実習（事前事後指導）
小学校教育実習

保育者論
教職論
保育・子育て支援実践演習（基礎）
保育・子育て支援実践演習（発展）
初等教科教育法（国語）
初等教科教育法（社会）
初等教科教育法（算数）
初等教科教育法（理科）
初等教科教育法（生活）
初等教科教育法（音楽）
初等教科教育法（図画工作）
初等教科教育法（家庭）
初等教科教育法（体育）
初等教科教育法（外語語）
道徳の指導法
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
保育・教育フィールド演習
保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導）
保育実習Ⅰ（保育所）
保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導）
保育実習Ⅰ（施設）
幼稚園教育実習Ⅰ（事前事後指導）
幼稚園教育実習Ⅰ
保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導
保育実習Ⅱ（保育所）
保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導
保育実習Ⅲ（施設）
幼稚園教育実習Ⅱ（事前事後指導）
幼稚園教育実習Ⅱ
小学校教育実習（事前事後指導）
小学校教育実習

専門基幹科目

CP3-2
　保育職・教育者として基幹となる専門的知識・技術を修得する科目を配置しており、保育職・教職の使命と責任について学修する。専門的実践者に求められる保育・教育の５つの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）に関する専門的事項及び指導法を学ぶ科目を配置し、さらには、保育計画をデザインする実践力を養う「保育内容総論」を必修科目としている。

子どもと健康
子どもと人間関係
子どもと環境
子どもと言葉
保育内容総論
保育カリキュラム論
子ども理解の方法
教育方法論

子どもと健康
子どもと人間関係
子どもと環境
子どもと言葉
保育内容総論
保育内容（人間関係）
保育内容（環境）
保育内容（健康）
保育内容（言葉）
保育内容（表現）
教育方法論
造形表現
身体表現
音楽表現

保育内容（人間関係）
保育内容（環境）
保育内容（健康）
保育内容（言葉）
保育内容（表現）
保育カリキュラム論
子ども理解の方法
造形表現
身体表現
音楽表現

保育内容総論
保育内容（人間関係）
保育内容（環境）
保育内容（健康）
保育内容（言葉）
保育内容（表現）

専門基礎科目

CP3-1
児童学における入門的又は基礎的な科目を配置している。幼稚園・保育所・認定こども園、小学校等でのフィールドワークをはじめとした専門的実践者の基盤づくりのための科目として「児童学基礎演習」を、各教員からオムニバスで専門領域を学ぶ「児童学を学ぶ」を、教育・保育の理念や歴史、制度について理解するための科目として「教育原理」「保育原理」を、子どもに関わる心理を深く理解する科目として「発達心理学」「教育心理学」を、音楽・造形・運動の原理・理論を理解した上で指導する基礎科目として「音楽基礎」「造形基礎」「体育基礎」を必修科目としている。
　また、専門的な知識・技術を、実際を想定した場面で活用し、他者との協働の中で適切にリーダーシップが発揮できるように、PBL型授業（Project Based Learning/Problem Based Learning）もこの段階から開始される。

児童学基礎演習
児童学を学ぶ
発達心理学
教育心理学
教育原理
保育原理
音楽基礎
造形基礎
体育基礎A
体育基礎B

児童学基礎演習
児童学を学ぶ
発達心理学
教育心理学
教育原理
保育原理

児童学基礎演習
児童学を学ぶ
音楽基礎
造形基礎
体育基礎A
体育基礎B

児童学基礎演習
児童学を学び

家政学部共通科目

CP2
家政学部共通科目では、家政学を学ぶうえで身に付けておくべき基本的な知識と技能を修得するため、以下のように教育課程を編成する。
・被服、食物、住居、児童、家庭経営の5 領域の基本的知識を学び、それらを統合した人間のライフサイクルと福祉の視点から人間生活の構造や基本事項を理解するための科目を配置する。
・前述の5 領域に隣接または基礎となる社会科学・自然科学などの幅広い諸科学の視点と基本的知識を獲得するための科目を配置す

家政学原論A　家政学原論B　家庭経営学Ⅰ　家庭経営学Ⅱ　消費者経済学
生活関連法規　家族関係学　人間形成の心理学　児童文化論
人間学　高齢者論　被服学概論　食物学概論　住居学概論　考古学
環境学概論　統計学　家庭電気・機械

教養教育科目

CP1
ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加して責任ある役割を果たすために、以下の「自律と努力コア」「創造とキャリアコア」「協働とリーダーシップコア」に区分する。

協働とリーダーシップコア	・他者と協働しながら課題解決に導くための協働性・コミュニケーション力やリーダーシップを養うために2単位を選択必修とする。
創造とキャリアコア	・新たな価値を創造し社会と積極的に関わっていくための基礎的な力を身につけるとともに、社会人として必要な教養を養うため、以下の必修・選択必修を定める。 ・情報リテラシーにおいては、情報化が加速する現代の社会生活で必要となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識や技術を身に付けるために、「データサイエンスとICTの基礎」を必修とする。 ・英語においては、プレイスメントテストの結果を踏まえた習熟度に基づくクラスを編成し、学生の習熟度や希望に応じて体系的に科目群を編成する。現代の社会生活で必要となる英語コミュニケーション力を身につけるために「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を必修とする。また、今後、進展するグローバル環境におけるキャリア形成に必要な語学能力を養成するためにTOEICのスコアアップを目指す。 ・生活者の視点で社会を幅広く俯瞰し必要な教養を身につけるために「情報リテラシー」「語学」以外の科目より児童学科は4単位を選択必修とする。
自律と努力コア	・初年次教育科目・キャリア教育科目として、客観的に物事を理解し、自己を確立し生涯学び続けるための基礎的な力を養うため、以下の必修を定める。 ・学生生活への適応、ライフプランやキャリアプラン形成のための「ライフプランと自己実現」、そして論理的な考え方や文章作成技術の定着、課題発見、課題分析、情報収集、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題解決に必要な技術の定着をはかるとともに、社会人として果たすべき責務を学ぶために、少人数で行う「基礎ゼミナール」「課題解決ワークショップ」を必修とする。

カリキュラム・ポリシー

DP1-1との関連性が
とても高い科目

DP1-2との関連性が
とても高い科目

DP1-3との関連性が
とても高い科目

DP2との関連性が
とても高い科目

DP3との関連性が
とても高い科目

アドミッション・ポリシー

AP-1-1知識・技能
高等学校の教育課程を幅広く修得している。

AP-1-2知識・技能
高等学校卒業までの履修内容のうち、体育、音楽、造形など入学後の修学に必要な技能を有している。また、基礎的なコミュニケーション能力、基礎的な科学的思考力、社会、生活、文化を理解するための基礎的な知識・技能を身に付けている。

AP-2思考力・判断力・表現力
身近な社会問題について、これまで身に付けた知識・技能を基に論理的に考え、他者の意見や考え方を尊重しつつ他者へ客観的に説明するための思考力・判断力・表現力を有している。

AP-3-1主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
課題を課された際に、主体的に探求し、最後まで取り組むことができる態度を有している。

AP-3-2主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
リーダーシップを発揮し、他者と協調・協働して社会に貢献したいという目的意識・態度を有している。

※各科目は「カリキュラムマップ」でディプロマ・ポリシーとの対応関係が「◎」の科目を記述している。